

# 11月

# 教会教育室だより

宣教部 教会教育室 2022.11.15 発行



日本バプテスト連盟のホームページでご覧いただけます

## 新「聖書教育」って？そして、相模はどうする？

相模中央キリスト教会では、年に一度CSリーダー会が主催の教会学校一日研修会を開催しており、今年度は、コロナの期間を経て3年振りの開催となりました。事前にCSリーダー会で、何をテーマに研修会を持つか話し合う中で、2023年度から、相模中央教会で長年教会学校のテキストとしてきた『聖書教育』が変わるらしい、是非、そのことについて知りたい、との意見が出され、まとまりました。

10月1日土曜日の午前中、富田直美先生を教会にお招きし、オンライン併用での開催、35名の参加となりました。2時間の研修会の前半は、新『聖書教育』について、後半は、予め富田先生にお伝えした相模中央教会の課題に沿って分かち合う予定でした。しかしながら、当日は、前半の先生の講演後の質疑応答でたくさんの発言が沸き上がり、あっという間に残り時間がわずかとなりました。新『聖書教育』に寄せる関心の高さが伺えました。

新『聖書教育』では内容がスリム化され、子どもたちのクラスはどうすればいいのか？楽しみにしていた特集記事は？バプテスト連盟以外の読者はどうなるのか？バイブルクラスのテキストは？また、毎月教会が受け取り・配布・集金する作業はどうでしょうか、A4サイズってどうなのか？更には、経費削減効果をはっきりさせてほしい、等々様々な疑問や意見が出ました。その一つ一つに、先生は丁寧に答えくださり、私たちは、これまで当然のように与えられてきた『聖書教育』の恵み、その執筆・編集の大変さを改めて噛みしめました。そして、連盟の機構改革の流れの中で、たくさんの工夫、改善が導かれてきたことを痛感する時となりました。今も尚、その模索の働きの渦中にあり、生まれ変わっていく新『聖書教育』、そこに私たちも一緒になって参画していくという期待が与えられました。当教会の課題については、他教会の事例をご紹介頂き、大いに励まされました。（長谷川ふみか・相模中央）



## 東京地方連合北地区信仰セミナーに参加して

秋の一日、「教会教育」についての東京地方バプテスト教会連合北地区信仰セミナーが開かれました。コロナ禍で、教会学校をもつことさえ困難な状況が続く中、いくつかの教会から教会学校の現状や今後の展望が報告されました。

各教会とも、対面での学校は開けず休止やリモートでの開校となり、子どもたちと直接会うこともできない寂しい日々が続いています。それでも少しずつ再開されている教会もあります。月に二度礼拝後に小さい集会を持っている、成年科のみ聖書研究をしている等工夫が見られました。

教会からの報告の後、富田直美先生から教会学校の未来に向けて『ありの背のび』というメッセージがありました。

教会学校において大切なことは、生徒たちの心を開くような場をつくり、心の鍵を開くような対話をもつこと。そこに答えがある必要はありません。ただ、心を開いて話す、そのあたかな場が大事なのです。黙って何も語らない生徒がいても、その生徒が何も考えていない何も感じていないわけではありません。伝統的な日本の学校の一斉授業では、早く答えを出した人が良いという正解主義があります。けれど、本当は正解などなくてよいのです。

教会学校の開き方についても、既成概念にとらわれないもち方を考えましょう。日曜日にこだわることもありません。小さいデポジションの時をもつというのもよいでしょう。ただ黙して祈るというだけでなく魂をしずめる時、神との交わりの時、静思の時をもちます。

神は人の戦いを、「ありの背のび」だけれどがんばっているね！と見守っています。小さな力を出し合う時、神さまは豊かに育ててくださいます。主に望みをおいていきましょう。

各教会の取り組みや富田先生のお話を伺い、教会学校についてなど考えることができました。私たちは、互いの存在を受けとめ、神さまに支えられて歩いていきたいと思いました。

（山本貴代子・赤塚）



画面のオン・オフは参加者の自由でした

## 「対話」を開く鍵

一般に対話と思われているものでも、実は対話ではないことが多くあります。たとえば議論や説得、説明のように、結論ありきで相手にわからせようという意図のやりとりは対話ではないと考えてください。対話で大事なことは対話が続くことです。クラスの中で、結論を急いで「つまりこういうことね」とまとめてしまう事はないでしょうか？無理に言葉を引き出そうとしたり、すぐに解決したくなる気持ちを手放して、対話をする中で道筋を見つける姿勢を保つことをお勧めします。

リーダーは、どんなメンバーとでも対話が続けられるよう対話の力を磨き続けましょう。葛藤や相違があったとしても、その場にいる人々の多様な声を共存させながら、「聞く」と「話すこと」を常に意識して、丁寧に分けながらクラスを進めます。「自分の発言が相手にどんなふうに響いているか」についてもできるだけ注意を向けてみましょう。

（富田直美・教会教育室室長）